

# 日本の山旅 2019年7月のお便り

## ★日本の山旅6月レポート&7月の山旅緊急大募集★

今年も春から不順な天候が続き、九州、西日本を中心に豪雨による土砂災害が続いています。最近の地球規模の気候変動により、日本でも各地で災害が増えています。いずれも自然林が減り植林伐採地が増えたことも大きな原因といえるでしょう。



これは日本の山旅でも同様、有名な山で登山道が整備過剰で自然道がなくなった所は年々荒れる一方なのに比べ、原生のしぜんが残っているブナ森は、いかなる災害にも耐えうる大自然の生命力に溢れています。そして少人数、小回りの利くノア号貸切りで臨機応変にコース変更も可能な平野ツアーは、これまでもいかなる天候の際も最良のコース巡りで、すべて大成功の山旅を実現。これからも大自然の声を聴きながら、他では決して体験できない平野ガイドならではの山旅をご案内していこうと思います。

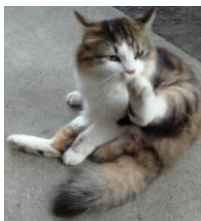
<6月の山旅は玉原ブナ林/ 伊吹山 / 真屋ブナ悠々の森3コース実施>

### ●玉原ブナ林/ ブナ森を満喫するゆったりコースに変更 (6月7・8日)

当初の予定はニガ秀山と鹿又山の2山を歩くコースだったが、天気予報が雨気味で参加メンバーもゆったり歩き希望のため、前日の下見で2日間の最良コースを検討。二日間の天気予報に反し、一日目は朝から雨だったので、急遽雨でも楽しめる「ブナ平」コースを歩くことにした。登山口のセンターハウスに着くと依然雨は降り止まず、3名は躊躇していたが、「こんな雨の日は町の観光よりも、空気のいいブナ森を歩くのが一番。」と皆を促し、完全装備で「ブナ平」を目指す。

雨のブナ森歩きもまた素晴らしい。ブナの葉は細い枝先の葉に落ちた雨水をすべて枝元に流し、さらに太い枝から幹へ、そして全ての雨水を根元に集める。ブナの根は毛細血管のように地面に這い、水分を蓄える。こんな素晴らしい保水力の仕組みがあるのはブナだけだ。ブナが水の神といわれる所以で、だからブナは自然にとって一番大切な木なのだ。ブナがある所に本当の自然があり、そのエネルギーを我々に降り注いでくれる。だから私はブナにこだわり、ブナ森歩きの素晴らしさを皆さんにも伝えたいと思うのですね。

ブナの幹に雨が伝い滝のように流れる様子は、他の木には見られないブナ独特の光景だ。雨の嫌いな参加者も、次第に雨のブナ森歩きの魅力に「この辺で戻ろう」という声も出てこない。私もこれ以上雨が強くなったら戻ろうかと思っていたが、次第に濃くなるブナ森の生態を観察しながら歩くうち、何とか目的地「ブナ平」に辿り着いた。ここでコーヒー・タイムといきたかったが、雨足はなお強くなり、「今日はこれで充分。」と戻ることにした。その日はまだ昼を食べていなかったの、どこかに気の利いた東屋でもないかと思っていたところ、途中の道の駅に丁度屋根付きのテーブルベンチがあったので、そこで遅めのランチタイムを取り、早めに高原の宿・水芭蕉にチェックインして、ゆったりとくつろぎ明日に備えた。



高原の宿・水芭蕉の猫

翌日、雲行きは何怪しいが何とか天気は持ちそうなので、昨日行けなかったニガ秀山へ。コース案内には載っていないが、ニガ秀山への最短かつブナ林の中の自然道を歩ける穴場コースで往復、途中からこれも最短コースで尾根道からブナ平へというプラン。車道歩きも最小限に抑え、ブナ森歩きを満喫できる特上の周遊コースである。これも2日前の下見でいくつかあるコースのうち、車道歩きで失敗したおかげ、無駄なコースを知ることでも下見の大きな成果といえるのだ。

という訳で、雨の降らないニガ秀山の頂上で昼食を済ませ、昨日は雨でのんびりでできなかった「ブナ平」でゆったりとコーヒー・タイムのひとときを過ごし、皆大満足、充実の2日間でした。

### ●伊吹山北尾根と御在所岳 / 武平峠から新コース大正解 (6月11・12日)

花の名山・伊吹山は、数多くの花名の由来になっている高山植物の宝庫としてあまりにも有名な山です。近年、シカによる食害でかつて頂上を埋め尽くしていた広大な高山植物は激減、現在植生回復中ですが、それでもなお6月から季節ごとに入れ替わる高山植物を楽しむことができます。6月ツアーでは、まずは伊吹山の中でも一般の人はあまり歩かない北尾根を歩き、誰もいない尾根道でランチタイムと本来の山歩きを楽しみました。今年はこの伊吹山でも花の季節が大幅にずれて、この北尾根には花が少なかったため、早めに引き返し、頂上周辺の遊歩道を歩くことに。こちらは北尾根とは違って変わって整備された遊歩道で花も丁度移り変わりの狭間でさほど多くの種類はみられなかったものの、純白のクサタチバナの大群落に皆感激、途中琵琶湖展望台に立ち寄り、頂上のベンチでコーヒー・タイム(人の多いところなので、お湯ポットを携帯)、最短コースの中央道で下山、早めに湯の山温泉へと向かう。

翌日の御在所岳はこれまでの定番コース・中道登山道を登るつもりでしたが、これは上部の花崗岩巨石や見どころが多いものの、かなりの急こう配でしかも結構スリルのある鎖場もある。今回のグループはゆったり歩き希望でしかも鎖場など絶対いやだという人もいる。そこで急遽作戦変更、もう少し楽な表道はどうかと思ったが、このコースは確かに最短で楽なコースではあるが、途中大した見どころや展望地もない。そこでもうひと踏ん張り考え、コースガイドには載っていないが、一番標高の高い武平峠から雨乞岳へのコースからも御在所岳へのコースがあることを思い出し、まだ歩いたことはないが、このコースで頂上を目指すことにした。

鈴鹿スカイライン頂上付近、トンネル西にある武平峠駐車場から鎌が岳への登山道を登り、武平峠から御在所岳へのルートは、標高差も400m程度でほかのコースに比べ最も楽そうなコースのようだ。実際に歩いてみると、コースは充分整備、仮払いもされていて歩きやすい。途中、2か所ほど花崗岩や石灰岩の巨岩が転がる展望地もあり、1時間半ほどで御在所岳頂上園地へと続く車道に出る。そこから幅広い緩やかな坂道を約20分、最後の階段を昇り終わると大きな山頂標識の立つ頂上に到着。やはりこれが御在所岳への最短かつ最も楽なコースだったわけで、今後ゆったり歩きのベストコースとして使えるだろう。御在所岳の頂上は、すぐ横にリフトの駅があり、下からロープウェイを使えば、一般の観光客でも来れる頂上で、登山とは場違いな人だらけ。しかしほんの5分ほど先の南峰は、巨岩の転がるいかにも山の頂上らしい別世界となっている。観光客は殆ど来ないこの静かな頂上で茶を沸かし、のんびりとランチタイムのひと時を楽しみ、ゆったり歩きグループはここで山歩き終了。全員一致でリフト+ロープウェイで下山という贅沢なゆったり歩きプラン完結です。ただ一人、車を武平峠に置いてきた私は今来た道に戻るとい、いつもよくあるパターンで大汗をかいて全力疾走で車に戻ったのでした。宿に着くと、ゆったりグループは汗もかかずゆとりの顔で私を出迎え、大満足の様子。いつもは近くの湯の山温泉駅へと送るところを、乗り換えが不便なので名古屋まで車で送る大サービス。これで伊吹山&御在所岳ゆったり山歩きベストプランが完成となりました。めでたしめでたし。

### ●真屋ブナ悠々の森と大空の滝/女神山 / ブナ森満喫ゆったりコース

かつて和賀岳と真屋岳2つのピークを目指す山旅は、いずれも歩くことに専念する健脚向けのハードコースでした。しかし最近では、この日本でも有数のブナ原生林をじっくりと味わうために、敢えてピークを目指さずブナ森の素晴らしい部分をゆったりと歩けるコースを作りました。すでに何度かこの山を歩いた人にもお勧めしたいブナの山旅特選コースが完成しました。



[その1・6月17日発]

1回目の真屋ブナコースは、超ゆったり歩き希望の3人。1日目は雨気味だったので、女神山は止めて雨でも歩ける大空の滝に。このコースは花巻と沢内村を結び「なめとこライン」という最近開通した道路の途中から、車通行止めの林道途中にあるブナ原生林まで、雨の日でもブナ森歩きを楽しめるゆったり歩きお勧めスポットだ。今回はかつて利用していた沢内銀河高原ホテルが閉館となり、南花巻温泉のホテル志戸平に変更したのも、この「なめとこライン」のお陰で沢内村との往復が便利になったためなのだ。

ところが前日の下見で、このなめとこラインの一部が道路崩壊のため通行止め。早速現場に行ってみると、花巻から沢内村までは行けないが、途中の大空の滝入口までは行ける。そしてそこから沢内村へ行くには花巻に戻り湯田から回り込めば行けるが、かなり遠回り。しかし豊沢湖から雫石方面に抜ける峠越えの旧道を利用すれば沢内村はもっと近い。この峠越えの林道は全線舗装道路だが殆ど1車線の狭い道で、慣れない人は躊躇するところだが、林道走行の大好きな私にとっては好むところ、それにミズナラやトチの大木も見られる素晴らしい原生林ドライブが楽しめる。「なめとこライン」よりは遠回りだが、街中を通る迂回路よりも遥かに価値がある。ということで雨の時は大空の滝、そして沢内一志戸平連絡新道開通、これで真屋ブナ2本の山旅の臨機応変な作戦完成だ。

6月17日、天気予報通り雨だったので悪路の林道や沢も多い女神山は止め、大空の滝へ。峠越えの林道ドライブに皆大喜び、途中まだ新緑の残る自然林スポットで休憩、極上のマイナスイオンを胸いっぱい吸い込む。大空の滝入口の登山口から小雨の中、緩やかな林道を歩くと、至る所に泥んこの水たまり。しかし雨具上下にロングスパッツ+傘、しっかりとしたトレッキングブーツに身を固めた我がゆったり歩き隊には何の苦にもならない。水たまりを避けることもなく平気で歩く。一般のスニーカー歩きの人には立ち入れない貸切り状態のブナ森歩きをゆったりと楽しみ、大空の滝展望地に到着。まだ先に「ブナ原生林」もあるが、雨が止んでいるうちに湯を沸かし、シートを広げてランチタイム。暑い赤だしみそ汁と持参した惣菜で結構充実した屋食を済ませると、寒い風も強くなってきたので早々に戻る。

その日は時間があまったので、志戸平のホテルは通過して、残りの屋食とコーヒー・タイムをと、花巻の宮沢賢治記念館へ行くことにした。何しろ花巻は岩手の天才・奇才、宮沢賢治の故郷、記念館を中心に関連の見どころは沢山ある。37歳にして没した賢治は「雨ニモ負ケズ…丈夫ナカラダヲモチ…」の詩にあるように、病気がちで丈夫な体に憧れたのだろう。とにかく彼の残した功績は計り知れない。

この宮沢賢治記念館には大きな駐車場があるが、そのすぐ横の見晴らし台に立派な東屋がある。ここには車1台横付け出来るスペースがあって、雨の時でもコーヒー・タイムを楽しめる私のお気に入りスポットがある。もっともカフェなどないから自分で用意するのは当たり前だが、山では山用コンロ+鍋、車で休憩ではいつでも専用の湯ポット、カップ、コーヒーセットを用意している平野ツアーは、いつでもどこでもランチ&コーヒー・タイムを楽しめるという訳だ。何といても雨の時は東屋が一番、しかも車を横付けできるという場所が最高だ。私は日本中至る所で山旅途中で利用できる気の利いた東屋を知っているし、初めてのところでも探せばあるものだ。

という訳で、2度目の屋食とコーヒー・タイムを最高級の東屋で過ごし、賢治記念館とその下のイーハトーブ館などを見学して、早めにホテル志戸平へ。ご機嫌な溪流露天風呂で初日の疲れを癒し、皆大満足の1日でした。



●真屋ブナ原生林から兎平、そして秘密のルートで展望ピークへ

翌日は天候も回復したので、昨日は歩けなかった山歩きらしいコースが良いと、真屋ブナ森から兎平まで足を伸ばすことにした。真屋岳中腹のブナ原生林の新緑を楽しみながら兎平の草原に辿り着くと、リングツツジとピンクのドウダンツツジが花盛り。そこから秘密の入口から兎平ピークへ。普通、真屋岳に向かう場合は時間が無いし、一般コースではないので寄る人も殆どいないこの草原ピークは、小グループの休憩に最高の場所。北に真屋岳から和賀岳に連なる連山、南の尾根続きには女神山、その向こうに焼石・栗駒連峰から早池峰山、さらに鳥海山まで360度の大展望を眺めながら、贅沢なランチタイムのひとつを満喫。今回はこちらで時間をつぶし、真屋ブナ悠々の森はまた次回ということで、この日も大満足・大成功の山旅でした。

[その2・6月19日発]

翌日、2回目のツアーはNリーダー率いる仲良しグループ5名。かつては健脚だったこのグループも、今ではゆったり歩き中心で、無理をせず欲張らず、ゆとりの山がモットー。しかし天気もますますであつたし、山歩きが好きなグループなので、より歩きごたえのある女神山にすることにした。沢内村の最南部にある女神山への林道は勾配もある悪路なので度々通行止めになる場所だ。事前に沢内村(西和賀町)の林道状況をネットで調べたところ、開通しているようだが、まだ油断できない。現場に来ると、林道入口に通行止めの看板はないので、さらに進んでいくと、以前よく崖が崩れた箇所は全て整地され、路面の整備もこれまでで一番登進んでいて、無事と慚愧地に到着。林道奥の登山口まで辿り着ければまずその山は大成功ということだ。

●和賀の名ガイド・佐々木さんとの再会に大感激

ここ数年、林道が普通であったため、久々の女神山ブナ森は実に新鮮、素晴らしいブナ原生林の新緑に皆も期待に胸が膨らむ。女神山への登り口から、このコース最大の急登が続くので、ここが一番の頑張りどころ。ゆっくりペースで黙々と登り続けること30分、ようやくブナ尾根に辿り着くと、前方で小グループの活気ある声が聞こえてきた。近づいてみると、若い山ガール風の3人組と高齢の地元ガイド風の男性が休憩していた。そのグループと話をしていると、その男性が私に近づいてきて「もしかして…」と話しかけてきた。お互い顔を近づけまじまじ見つめ合ううち、私も思い出した。「そうだ、佐々木さんですよ。」と嬉しい再会に大感激の一瞬だった。彼は地元の名ガイドで、以前は毎年のように訪れていた和賀山塊の山で度々会っていた人だ。その頃は70歳過ぎでも超健脚で、ナタと鋸を持って度々山に一人でコースの整備をしたり、ガイドとしてグループを案内したり、とにかく和賀の主ともいえる鉄人であった。かつて馴染みのグループを和賀岳に案内した時、いつもよくやる近道先回りという作戦で皆を驚かせようと、調子に乗り1本沢を間違ひ、とんでもない悪沢に大苦戦の末、ヨレヨレの状態でもようやく皆の待つ和賀渡渉点に辿り着いたことがあった。その時もたまたま佐々木さんがいて、皆の相手をしてくれていた。彼は私が迷った場所を察し、かなり心配しながらも私を信じて皆を励まし一緒に私を待っていてくれたという正に和賀岳での大恩人、神様のような人である。

その後、同じグループと高下岳の途中で彼に会って以来、もう大分彼と会っていなかったが、沢内村に来るたびにいつも彼のことは気になっていた。だから久々の偶然の出会いが本当に嬉しかった。何と佐々木さんとは翌日、山に行く途中、いつも寄る産直ハウスでまたまたバッタリ出くわした。彼は今83歳、私と会うのは10年ぶりだという。確かにあの頃は73歳で現役バリバリのガイドだったが、やはり10年たった今、どことなくしわが増え、やや細身になったような気がする。しかしそれにしてもまだ依然と度々山に入っているしガイドもしている。さすが和賀仙人、佐々木さんを手本に私もまだ10年以上頑張れるという思い新たに大恩人と別れ、いざ真屋ブナへ。

●真屋ブナ悠々の森、理想的なブナ森ゆったり周遊コース完成

昨日は女神山をたっぷり歩いたので、今日は真屋ブナ悠々の森をじっくりと歩こうと再び真屋林道・兎平登山口に直行。前は兎平で時間をつぶしたので、今回は悠々の森でたっぷり時間をかけてブナ森を満喫しよう。

この「真屋ブナ悠々の森」という名は私が勝手に付けたもので、元々「ブナ指標林」として自然観察用に整備されていたものだ。かつては遊歩道や道標、目印も分かりやすく整備されていたが、10年ほど前から整備されずではわずかに残る赤テープのみとなり、コースの刈り払いも全くしていないので、従来のコースは殆ど不明瞭となってしまう。だから最近では殆ど人が入らず、それゆえに手付かずのブナ原生林が一層保たれている大自然の別天地となっている。私は昨年、久しぶりにこの聖域を一人で歩き、以前は往復だったこのブナ森を歩き回り、素晴らしい周遊ルートを完成させた。複雑なこの森の位置関係もおよそ把握したので、レベルによっていくつかルートを選ぶことができた。

今では道標もない森の分岐入口からフミアトを辿り、悠々の森入口を見つけて中に入ると、そこはもう手付かずのブナ原生林の別天地が広がっていた。時折立派なブナの巨木も混じり、ブナの実生から若木、壮年木まで揃う典型的なブナ極相林は実に感動的、皆素晴らしいために息をつくことしばし。すでに今日はこの森でゆっくりとたっぷり時間をつぶしたい、という気分になっているようだ。以前の終点付近にあったこの森の主・ブナ大王はすでに倒れ、ブナ森の斜面に明るく広大なスペースを提供している。休憩と昼寝に唯一最高のこの場所で、たっぷりランチタイムと昼寝のひと時を取ることにした。

ここは乾いた落葉と柔らかい腐葉土で実に気持ちのいい広場だ。私は(皆も)今日はこの悠々の森だけで充分と、ここで長居を決め込み、しばし悠々のひと時を満喫し続けたのでした。



\*\*\*\*\* ブナ大王倒木広場・憩いのひと時 \*\*\*\*\*

この「真屋ブナ悠々の森」は、ブナをこよなく愛する私がこれまで見つけたブナ森歩きの中でも一番気に入っている場所です。ここは自分でもまた他のいかなるツアーでも絶対に真似のできない平野ガイドのみ案内できるブナ森の聖域といえるでしょう。これまでも2度ほどこの地を案内したことがありますが、ここに至ってようやく理想的な「悠々の森」の歩き方が実現しました。今後は平野ガイド・ブナ森歩きのメッカとして度々実施したいと思いますので、かつて和賀・真屋岳を歩いた人にも是非歩いていただきたいと思います。

\*\*\*\*\*

今回の山旅便りは、主に以下7月ツアー大至急の募集のご案内です。9月以降の山旅は先の5月のお便りと同様で、改めて8月のお便りでご案内しますが、ホテル予約の都合上、早めの予約をお勧めします。

◆7月の山旅・新コース緊急大募集です!!◆

7月の山旅は北海道、東北共に素晴らしい花の山旅を企画していましたが、残念ながら今回はいずれも中止となり、平野ガイドは夏のシーズン中を我が家でガーデニング、大工仕事で大汗をかいて体脂肪を燃やし、事務仕事に専念することになりました。しかし花のベストシーズンに何処にもいけないうちはあまりにももったいない話です。そこで今回はこれまでこの季節に実施できなかった花の山旅を、急遽企画しました。7月にまだ予定のない人、大至急ご検討下さい。

■花の伊吹山と鈴鹿花の名山・霊仙山、湯の山温泉

伊吹山一の花コース・北尾根と頂上お花畑、鈴鹿最北の名山を歩く

①7月17日(水) ②7月19日(金) 2日間 ★健脚度: 2~3

●現地参加料金: ¥42,000 (米原駅集合・解散)

☞高山植物の宝庫・伊吹山随一のフラワーロード・北尾根から国見岳まで往復と伊吹山頂上遊歩道周遊。イブキジャコウソウの季節に再訪です。

①米原駅(9:44着) = 伊吹山スカイライン = 北尾根登山口…△御座峰(又は途中まで往復②時間~3時間) = 頂上駐車場…西登山道…△伊吹山頂上…東登山道…駐車場(周遊②約1時間40分) = 湯の山温泉【ホテル鹿の湯泊】② = 醒ヶ井 = 樽ヶ畑(クレガハタ) 林道登山口…△経塚山…△霊仙山(②往復約5時間) = 米原駅(17:57発)

■櫛形山・アヤメ平と夜叉神峠、花と展望の山旅

アヤメの大群落と南アルプス・白根三山の展望峠を巡る ★健脚度: 2~3

①7月22日(月) ②7月24日(水) 2日間

●現地参加料金: ¥35,000 (甲府駅集合・解散)

☞甲府盆地の南にどっしりと構える櫛形山。山頂に最も近い茶屋池林道終点登山口から、最短コースで往復します。櫛形山登山口に近い清柳ゆずの里に泊まり、1日目は白根三山の絶景展望台・夜叉神峠も訪れます。

①甲府駅(8:19着) = 芦安 = 夜叉神峠登山口…△夜叉神峠(②往復約2時間30分) = 青柳ゆずの里【ホテルいち柳泊】② = 茶屋池林道終点登山口…△櫛形山・奥仙三角点…原生林…裸山…アヤメ平…櫛形山…登山口(②約4時間30分) = 甲府駅(17:00頃着)

△上記2コースいずれも3名から実施、グループ貸切り可也。定員6名。

◆9月の山旅: 頑張ろう東北・三陸復興国立公園、そして糸魚川も!◆

暑い夏が終わり9月半ばになると快適な山旅の季節となります。夏の暑さで疲れ果てた心身を鍛え直し、10月からの東北・紅葉のブナの山旅に備えましょう。9月の山旅の大本命は三陸の山旅2コース。百名山とも無縁なマイナーな山域ゆえ、興味を持たない人も多いのは勿体ないです。平野ガイドが開拓したコースはいずれも三陸の山旅再発見、大自然と静かに向き合え本来の山歩きを楽しめる貴重な山旅なのです。三陸の山旅3コースをまだ歩いたことのない人は、是非平野ガイドと共に歩きましょう。

■杵海新道・白鳥山と糸魚川ジオパーク、ヒスイ峡

北アルプス縦走路最北端の山と日本最大のヒスイの渓流を巡る

●9月20日(金) 3日間 ★健脚度: 3 \*日程は6月の山旅参照

●現地参加料金: ¥63,000 (北陸新幹線糸魚川駅集合・解散)

◆三陸で見つけた原生林ウォークの理想郷・古の自然道を歩こう◆

■十二神森・千古の森~十二神山、兜明神岳と霞露ヶ岳

三陸の山旅その1…三陸に残されたブナ原生林、巨木の森道遊

●9月23日(月) 3日間 ★健脚度: 3 \*日程は6月の山旅参照

■遠島岳と遠別岳・安家森、階上岳、種差海岸 3日間

三陸の山旅その2…日本一の白樺林と静寂のブナ原生林 ★健脚度: 3

●9月26日(木) 3日間 ●現地参加料金: ¥63,000 (八戸駅集合、盛岡駅解散)

△上記3コースいずれも3名から実施、定員6名。

■津軽・下北半島大周遊の山旅・復活の大尽山 3日間

大尽山と縫道石山、津軽鋸岳、十三湖・亀ヶ岡縄文遺跡 ★健脚度 3

●9月29日(日) 3日間 ●現地参加料金: ¥67,000 (新青森駅集合・解散)

▼9月の山旅新コース▼

■伊豆の山旅その2・堂ヶ島三四郎島と達磨山 2日間

伊豆のモンサンミシェルと西伊豆スカイライン周遊 ★健脚度 2

●9月17日(火) 2日間 ●現地参加料金: ¥31,000 (三島駅集合・解散)

トンボロ現象で有名な堂ヶ島三四郎島。島まで歩いて渡れる季節、時間に訪れます。土肥温泉のリゾートホテルに泊まり、西伊豆スカイライン・達磨山、堂ヶ島海岸遊歩道その他、西伊豆の山と海岸周遊の山旅&ドライブ。

◆10月の山旅・世界一美しい日本の紅葉、  
錦織り成す東北のブナ原生林で悠久のひと時を ◆

新緑の美しい日本のブナ原生林は、オオカメノキやカエデ、コシアブラなど様々な種類の樹木が混じり、秋の季節には錦絵の紅葉の世界が広がります。このような変化に富んだ紅葉は、地球上で他の地域では決して見るることのできない日本ならではの素晴らしさといえるでしょう。日本に住む我々はこの日本の紅葉の素晴らしさを再認識して、世界一美しいブナ原生林の紅葉を堪能したいものです。平野ガイドがベストコースをご案内します。

■栗駒山（秣岳）と栗駒古道・千年クロベ、御駒山

秋の栗駒山と役の行者ゆかりの古道を歩く、日本一のクロベ巨樹 ★健脚度：3  
●10月3日(木) 発 3日間 ●¥62,000 (一関駅集合、解散)

■森吉山とノロ川ブナ原生林、幸兵衛の滝&安の滝

秋の森吉山と錦秋のノロ川ブナ原生林、マタギの里から2つの滝巡り  
●10月6日(日) 発 3日間 ★健脚度：2~2+  
●現地参加料金：¥65,000 (田沢湖集合・盛岡解散)

■秋の白神山地と十二湖、岩木山黒森・巨木の森逍遥

高倉森と十二湖、クロクマの滝、岩木山随一のブナ原生林・黒森新ルート  
●10月9日(水) 発 3日間 ★健脚度：2~3  
●現地参加料金：¥65,000 (新青森駅集合・解散)

■秋の南八甲田・紅葉の赤沼と雛岳、奥入瀬~十和田湖を巡る

八甲田随一のブナ原生林を巡るゆったり山旅 ★健脚度：2~3  
●10月12日(土) 発 3日間 ●現地参加料金：¥65,000 (新青森集合・盛岡解散)

■真昼山地・真昼ブナ原生林悠久の森と大空の滝 ゆったり山旅

真昼岳山麓のブナ指標林・手つかずの森で悠久のひと時を  
●10月15日(火) 発 2日間 ★健脚度：2~2+ \*日程は6月の山旅参照  
●現地参加料金：¥43,000 (盛岡駅集合・新花巻駅解散)

■秋の和賀・高下岳と真昼岳、女神山、志戸平温泉の溪流露天風呂

和賀岳周辺のブナ原生林と展望ピークを巡る  
●10月17日(木) 発 3日間 ★健脚度：3+  
●現地参加料金：¥64,000 (北上駅集合・新花巻駅解散)

■秋の裏磐梯・雄国山と雄子沢&デコ平ブナ原生林

裏磐梯五色沼周辺の原生林と渓谷・紅葉の山旅 ★健脚度：3  
●10月20日(日) 発 2日間 ●現地参加料金：¥42,000 (会津若松駅集合、解散)

■鍋倉山・巨木の森と天水山ブナの森、カヤノブナ原生林

信越トレイルのブナ林ベストスポットを巡る、紅葉の山旅スペシャル  
●10月22日(火) 発 3日間 ★健脚度：3  
●現地参加料金：¥62,000 (新幹線飯山集合、越後湯沢駅解散)

■玉原高原ブナ林・鹿又山と尼ガ秀山、玉原温泉周遊

関東で一番近いブナ林、新緑の山旅2日間 ベストコースで  
●10月25日(金) 発 2日間 ★健脚度：2~3 \*日程は6月の山旅参照  
●現地参加料金：¥39,000 (上越新幹線上毛高原駅集合・解散)

■秋の能登半島、鉢伏山のブナ林と石動山、気田大社

能登唯一のブナ原生林と石動山神聖の森、気多大社  
●10月28日(月) 発 2日間 ★健脚度：2~3  
●現地参加料金：¥39,000 (北陸新幹線金沢駅集合、解散)

▼能登の山旅・能登半島4つの山を巡る新コース・2回目3度目の能登の山旅に

秋の能登半島、宝達山と鉢伏山、山伏山、石動山  
能登半島の山々と自然林、パワースポットを巡る秋の山旅スペシャル  
●10月30日(水) 発 2日間 ★健脚度：2~3  
●現地参加料金：¥39,000 (北陸新幹線金沢駅集合、解散)

■秋の弥彦山と国上山、岩室温泉 2日間

●11月2日(土) 発 ★健脚度：2~3  
●現地参加料金：¥38,000 (上越新幹線燕三条駅集合、解散)

■秋の金華山・神聖の森と牡鹿半島の自然公園を巡る 2日間  
三陸の山旅その3・神の宿る島、手つかずの神域を歩く

①11月4日(月) 発 ②11月6日(水) 2日間 ★健脚度：2~3  
●現地参加料金：¥45,000 (石巻駅集合・解散)

■函南原生林と伊豆細野高原・三筋山、天城越え

●11月10日(日) 発 2日間 ★健脚度：2  
●現地参加料金：¥29,000 (三島駅集合・解散) \*日程は5月の山旅参照  
▼毎年一度は歩きたい奥多摩一番の自然林&自然道、晩秋の季節に▼  
■秋の大マテイ山と雁ヶ腹摺山 2日間 晩秋の季節に  
①11月13日(水) ②11月15日(金) 発 ★健脚度：2~3 \*日程は6月の山旅参照  
●現地参加料金：¥28,000 (上野原駅集合・解散、又は大月駅解散)

<11月の山旅新コース・平野ガイドオリジナルの周遊コースで>

1伊豆の山旅その3・秋の天城猿山と函南原生林

天城随一のブナ原生林、小僧山から猿山・兄弟ブナ広場に憩う  
●11月8日(金) 発 2日間 ★健脚度：3~3+  
●現地参加料金：¥31,000 (三島駅集合・解散)

2久慈男体山と袋田の滝、月居山~鍋転山、袋田温泉

①11月20日(水) ②11月22日(金) 発 2日間 ★健脚度2~3  
●現地参加料金：¥35,000 (水戸駅集合・解散)  
⇒栃木の名山・久慈男体山を晩秋の時期に訪れます。一般コースの長い林道歩きは避けて、大円地下駐車場から最短コースで頂上へ、大円地越え経由で下る無駄のない平野流周遊コースで歩きます。袋田温泉一の宿【思い出浪漫館】に泊まり、翌日、月居山から鍋転山(男体山縦走尾根第一展望台)まで、これも袋田の滝からの急階段を避けて、月居山登山口から自然道の山道で往復。  
①水戸駅(9:18着)=大子町=男体山大円地下駐車場…修験者コース…△久慈男体山天溪大円地越え…駐車場(周遊約2時間)=袋田温泉【思い出浪漫館泊】②=月居山登山口…月居山…△鍋転山(往復約2時間30分)=袋田の滝(見学30分、各自)=道の駅奥久慈だご=水戸駅(夕方着)  
▽シーズンオフの足慣らしに日帰りで

3高尾山~景信山周遊：誰も歩いたことのない面白コース

●11月25日(月)~11月28日(金)の随時、日帰り、3名から実施  
●現地参加料金：¥3,000 (JR高尾駅集合・解散)  
⇒日本の山旅の足慣らし、トレーニングに一番人気の高尾山は、リピーターの皆さんは既に毎年のように何度もいろいろなコースを歩いていることと思います。しかし平野ガイドは裏高尾の林道に高尾山への最短ルートの入口を発見、歩く人も殆どなく、階段もなく歩きやすい山道で、頂上まで20~30分の超穴場コースです。頂上から景信山へ縦走して頂上園地でランチタイム、下山は小下沢へ下る周遊コースを作りました。下山口から出発点までは1時間ほどの長い林道と車道歩きとなりますが、平野流車回送術?で無駄な歩きをカット、これまでにない高尾山~景信山周遊、乞うご期待。  
●京王高尾駅=裏高尾林道登山口…△高尾山頂上…小仏城山…小仏峠…△景信山…小仏分岐…小下沢登山口(周遊約4時間)=高尾駅(18:00頃着)

\*9月以降の山旅詳細は8月のお便りでご案内します。宿予約の都合上、予約は出来るだけ早めをお願いします。日程やコース、レベルの変更も可能ですので、ご希望その他、平野ガイドまで何なりとご連絡下さい。

■コロミコ・トレック連絡先：☎/FAX: 045-481-0571  
平野携帯：080-5665-9186 ✉ [koromiko2@pop07.odn.ne](mailto:koromiko2@pop07.odn.ne)  
HP：[www.koromikotrek.com](http://www.koromikotrek.com) 又は【コロミコ・トレック】で検索